

今月のことば

ハトとタカ
いのちの
おもさは
おなじです

〔かるた48―仏さまのおこころ―より〕

龍谷大学非常勤講師
小池秀章 こいけひであき

「ハトとタカ いのちのおもさは おなじです」。これは、「かるた48―仏さまのおこころ―」の『は』の札の言葉です。『は』の読み札の裏面には、次のような解説文が載っています。

「昔、シビ王という王様がいました。ある日、一羽のハトが、助けをもとめて飛んできました。追ってきたタカは、『そのハトを食べないと飢え死にする』と言います。両方のいのちを助けたらと思ったシビ王は、ハトと同じ重さの肉を自分の体から切り取って、タカに与えることにしました。自分の体の肉を切り取って天秤てんびんにのせるのですが、なかなかハトと釣り合いません。シビ王は、はっとして自らが天秤にのると、やっと釣り合ったのです。」

シビ王は、この天秤が、単なる物質的な重さを量る天秤ではなく、いのちの重さを量る天秤だということに、気づいたので。そして、ハトのいのちと自分のいのち、タカのいのちも、皆同じ重さであるということを知るので。

人間のいのちも動物のいのちも、小さな生き物のいのちも大きな生き物のいのちも、いのちの重さは同じです。ところが、私たちは、普段の生活の中で、無意識のうちに、いのちを分け隔てしてしまっているのではないのでしょうか。

皆、仏さまの願いの中で生かされている、かけがえない尊いいのちなのです。そのことを常に心に留めておきたいと思えます。

合掌